

相談援助の理論と方法

問題 98 ソーシャルワーク実践におけるシステム理論の考え方に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 ピンカス(Pincus, A.)とミナハン(Minahan, A.)の実践モデルにおけるターゲットシステムは、目標達成のために、ソーシャルワーカーと協力していく人々を指す。
- 2 開放システムの変容の最終状態は、初期条件によって一義的に決定される。
- 3 システムには、他の要素から正負のフィードバックを受けることで、自己を変化・維持させようとする仕組みがある。
- 4 クライアントの生活上の問題に関し、問題を生じさせている原因と結果の因果関係に着目する。
- 5 家族の問題に対して、課題を個々の家族員の次元で捉え、個々人に焦点を当てたサービスを提供する。

問題 99 ソーシャルワークの実践モデルに関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 生活モデルは、問題を抱えるクライアントの人格に焦点を絞り、問題の原因究明を重視する。
- 2 生活モデルは、人と環境の相互作用に焦点を当て、人の生活を全体的視点から捉える。
- 3 治療モデルは、人が疎外される背景にある社会の抑圧構造に注目する。
- 4 治療モデルは、問題を抱えるクライアントのもつ強さ、資源に焦点を当てる。
- 5 ストレングスモデルは、クライアントの病理を正確に捉えることを重視する。

問題 100 ソーシャルワークのアプローチに関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 機能的アプローチでは、4つのPを実践の構成要素として、クライアントのコンピテンス、動機づけとワーカビリティを高めることを目指す。
- 2 問題解決アプローチでは、女性にとっての差別や抑圧などの社会的現実を顕在化させ、個人のエンパワメントと社会的抑圧の根絶を目指す。
- 3 ユニタリーアプローチでは、ソーシャルワーカーが所属する機関の機能と専門職の役割機能の活用を重視し、クライアントのもつ意志の力を十分に発揮できるよう促すことを目指す。
- 4 実存主義アプローチでは、クライアントが自我に囚われた状態から抜け出すために、他者とのつながりを形成することで、自らの生きる意味を把握し、疎外からの解放を目指す。
- 5 フェミニストアプローチでは、システム理論に基づいて問題を定義し、ソーシャルワーカーのクライアントに対する教育的役割を重視し、段階的に目的を達成することを目指す。

問題 101 事例を読んで、就労継続支援B型事業所のE職員(社会福祉士)が、クライアントに危険が及ぶような行動を減らすために、行動変容アプローチを応用して行う対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

知的障害があるFさん(20歳)は、作業中に興味があるものが目に入ると勢いよく外に飛び出してしまうことや、作業時間中でも床に寝転がること等の行動が度々あった。寝転がっているところに起き上がるよう声かけを行うと、引っ張り合いになっていた。Fさんのこれらの行動は、職員や仲間からの注目・関心を集めていた。そこで、Eは、Fさんが席に座って作業を継続することを目標行動にして支援を開始した。

- 1 Fさんが何かに気を取られて席を立つたびに、報酬を与える。
- 2 支援を始めて1か月後に、目標行動の変化を評価しベースラインをつける。
- 3 不適切行動のモデリングとして、職員が寝転がって見せる。
- 4 作業が継続できるたびにベルを鳴らし、ベルの音と作業を条件づける。
- 5 寝転がる前の先行条件、寝転がった後の結果といった行動の仕組みを分析する。

問題 102 事例を読んで、乳児院のG家庭支援専門相談員(社会福祉士)が活用するアセスメントツールに関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

一人暮らしのHさんは、慢性疾患による入退院を繰り返しながら出産したが、直後に長期の入院治療が必要となり、息子は乳児院に入所となった。Hさんは2か月前に退院し、職場にも復帰したので、息子と一緒に暮らしたいとGに相談した。ただ、「職場の同僚ともうまくいかず、助けてくれる人もいないので、一人で不安だ」とも話した。そこでGは、引き取りに向けて支援するため、アセスメントツールを活用することにした。

- 1 同僚との関係を整理するために、ジェノグラムを作成する。
- 2 息子の発育状況を整理するために、エコマップを作成する。
- 3 周囲からのサポートを整理するために、エコマップを作成する。
- 4 自宅周辺的生活環境を整理するために、ソシオグラムを作成する。
- 5 Hさんの病状を整理するために、ソシオグラムを作成する。

問題 103 ソーシャルワークのプランニングにおける、目標の設定とクライアントの意欲に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 ソーシャルワーカーが、独自の判断で高い目標を設定すると、クライアントの意欲は高まる。
- 2 クライアントが自分でもできそうだと思う目標を段階的に設定すると、クライアントの意欲は低下する。
- 3 クライアントが具体的に何をすべきかがわかる目標を設定すると、クライアントの意欲が高まる。
- 4 クライアントにとって興味がある目標を設定すると、クライアントの意欲は低下する。
- 5 最終的に実現したい生活像とは切り離して目標を設定すると、クライアントの意欲が高まる。

問題 104 次の事例は、在宅療養支援におけるモニタリングの段階に関するものである。この段階における J 医療ソーシャルワーカー(社会福祉士)の対応として、適切なものを 2 つ選びなさい。

〔事例〕

K さん(60 歳)は、呼吸器機能に障害があり病院に入院していたが、退院後には自宅で在宅酸素療法を行うことになった。K さんとその夫は、在宅療養支援診療所の J と話し合いながら、訪問診療、訪問看護、訪問介護等を導入して在宅療養体制を整えた。療養開始後 1 か月が経ち、J はモニタリングを行うことにした。

- 1 K さんに「自宅での療養で困っていることはありますか」と聞き、新たな要望やニーズの有無を確認する。
- 2 K さんの夫に「病気になる前はどのように暮らしていましたか」と聞き、K さんの生活歴を確認する。
- 3 訪問介護員に「医療上、何かすべきことはありますか」と医療的ケアの課題を確認する。
- 4 主治医に「入院前の病状はいかがでしたか」と過去の治療状況を確認する。
- 5 訪問看護師に「サービス実施状況はどうですか」と経過や課題を確認する。

問題 105 ソーシャルワークの過程におけるアフターケアに関する次の記述のうち、最も適切なものを 1 つ選びなさい。

- 1 ソーシャルワーカーや支援チームの状況変化に応じて行う。
- 2 クライアントとの間に信頼関係を形成することが目的となる。
- 3 アセスメントの精度を高めることが目的である。
- 4 問題の新たな発生や再発が起きていないか確認をする。
- 5 支援計画が十分に実施されたかを評価する。

問題 106 ソーシャルワークの援助関係に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 共感的理解とは、クライアントの世界を、あたかもソーシャルワーカーも体験したかのように理解することである。
- 2 目的志向性とは、クライアントを意図的に導くことにより、ソーシャルワーカーの自己覚知を促進することである。
- 3 パターナリズムとは、ソーシャルワーカーの権威と自由裁量を否定し、対等な立場を重視した援助関係のことである。
- 4 受容とは、クライアントの逸脱した態度や行動に対しても、同調した上で、それを許容することである。
- 5 ソーシャルワーカーの自己開示とは、クライアントの行動や感情における矛盾を指摘することである。

問題 107 次の記述のうち、ケアマネジメントの一連の過程における再アセスメントに関するものとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 サービスを新たに開始するために、クライアントの望む生活に向けた目標を設定し、その実現に向けて支援内容を決定した。
- 2 クライアントの生活状況の変化によるサービス内容の見直しのために、新たに情報収集し、課題の分析を行った。
- 3 クライアントの課題が解決したため、ケアマネジメントを終了することを確認した。
- 4 クライアントになる可能性のある人の自宅やその地域を訪問し、ニーズを把握した。
- 5 サービスの終結をした者から、新たにサービス利用の申し出があったため、情報の収集を行った。

問題 108 ロスマン(Rothman, J.)が1960年代に提唱したコミュニティ・オーガニゼーション実践のモデルに関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 組織化モデルとは、住民の地域生活支援を目標として、当事者の個別支援と連動させて、地域の生活基盤の整備に向けた地域支援を展開する方法である。
- 2 小地域開発モデルとは、不利な立場に置かれた人々が直面する状況を自らの力では変革できない時に、同じ問題意識を共有する人々と連帯し、権力構造に対して政治的に働きかける方法である。
- 3 社会計画モデルとは、住民や当事者が求めるサービスや資源の提供を達成するために地域のニーズを調査して、サービス提供機関間の調整を図る方法である。
- 4 ソーシャルアクションモデルとは、地域が求める目標を達成するために、サービス提供機関が地域の資源を利用して活動を推進する方法である。
- 5 統合モデルとは、地方自治体による政策実践と、福祉施設等における運営管理実践を一体のものとして、地域を変革することを主たる目標とする方法である。

問題 109 グループワークに関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 グループの発達過程は、メンバー間の関係の変化に影響を受ける。
- 2 波長合わせとは、メンバー間の親しい接触を通して、お互いに刺激し、影響し合うことである。
- 3 グループメンバー間の暗黙の葛藤に対しては、それが表面化しないように働きかける。
- 4 プログラム活動では、全員が同じ動きを行うことを優先するように求める。
- 5 終結期には、メンバー間の感情の表出や分かち合いを避ける。

問題 110 スーパービジョンに関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 スーパーバイザーは、スーパーバイザーより知識も技量も高い。
- 2 スーパービジョンの契約は、スーパービジョンの展開過程の終結段階で行われる。
- 3 スーパービジョンにおける管理的機能では、スーパーバイザーの業務遂行の適切さを確認する。
- 4 パラレルプロセスは、スーパーバイザーが過去の特定の人間関係をスーパーバイザーとの関係の中に投影することである。
- 5 スーパーバイザーは、クライアントに最良のサービスを直接提供する。

問題 111 記録の方式の一つにSOAP方式がある。その内容に関して、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 Sは、客観的情報であり、利用者の行動を観察した内容を記述する。
- 2 Oは、主観的情報であり、利用者の語った内容を記述する。
- 3 Aは、支援計画であり、他機関や他専門職からの情報を記述する。
- 4 Pは、プロセスであり、利用者の言葉や他機関からの情報に関する判断を記述する。
- 5 SOAP記録は、問題と援助者の思考が明確になる問題志向型記録の一つである。

問題 112 「個人情報保護法」に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 個人情報取扱事業者には、国の機関は除外されている。
- 2 本人の生命の保護に必要がある場合であっても、本人の同意を得ることが困難であるときは、個人情報を第三者に提供してはならない。
- 3 オンラインによる個人情報の提供は、ウイルスや不正アクセス等のリスクを伴うため禁止されている。
- 4 クレジットカード番号は、個人識別符号に含まれる。
- 5 事業者は、サービス利用者から本人のサービス記録の開示を求められた場合でも、これに応じる義務はない。

(注) 「個人情報保護法」とは、「個人情報の保護に関する法律」のことである。

問題 113 事例分析の対象を手段的事例と固有事例に分けたとき、手段的事例の例として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 ソーシャルワーカーが担当しているクライアントの支援において、今後の方向性を考えるために、クライアントと共に事例分析をした。
- 2 新人のソーシャルワーカーが担当しているクライアントの支援過程について、指導的立場のソーシャルワーカーと一緒に、事例分析をした。
- 3 ソーシャルワーカーが担当している事例で、支援結果が良好なものがあつたので、その要因を明らかにするため、事例分析をした。
- 4 ソーシャルワーカーが担当している事例で、複雑な問題を抱え支援が困難なクライアントがおり、事例分析をした。
- 5 ソーシャルワーカーが担当している地区で、高齢者から振り込め詐欺に関する相談が頻繁にあるため、研修を目的とした事例分析をした。

問題 114 事例を読んで、N市社会福祉協議会のM職員(社会福祉士)の対応として、適切なものを2つ選びなさい。

〔事例〕

N市社会福祉協議会は、N市から避難行動要支援者への支援に関して委託事業を受けている。Mは、その事業のコーディネーター役を担当しており、N市が海岸線の近くにあり、高台が少ないことから、大地震の際の津波などによる被害を心配している。Mは、日頃から「備えあれば憂いなし」と周りの職員たちに言い、避難行動要支援者を中心にした、平常時からのネットワーキングがN市には必要と考えて、支援活動をしている。

- 1 近隣の住民に声をかけ、避難行動要支援者と一緒に避難訓練を行う。
- 2 災害発生に備えて、避難行動要支援者名簿を地域の全戸に配布する。
- 3 自力で避難できるよう、避難行動要支援者を個別に訪問して指導する。
- 4 避難支援等関係者よりも、避難行動要支援者の安全確保を最優先するよう関係者に指示する。
- 5 避難支援等関係機関と一緒に福祉避難所を確認する機会をもつ。

問題 115 事例を読んで、Aスクールソーシャルワーカー(社会福祉士)の解決志向アプローチに基づく問いかけとして、適切なものを2つ選びなさい。

〔事例〕

Bさん(高校1年生)は、父親、弟(小学4年生)、妹(小学1年生)の4人家族である。父親は長距離トラックの運転手で、Bさんは長女として家事と弟妹の世話を引き受けている。ある日、Aスクールソーシャルワーカーに、「家族のためにやることをやるのは当然だし、喜んでもらえるのもうれしい。でも毎日勉強とバイトと家事で精一杯。これ以上はもう無理かも…」とつぶやいた。AはこれまでのBさんの頑張りをねぎらいながら、以下の問いかけをした。

- 1 「もし奇跡が起こって何もかもうまくいくとしたら、どうなると思いますか？」
- 2 「最悪な状況を0、何もかも解決したのが10なら、今は何点になりますか？」
- 3 「Bさんが『もう無理かも』と思ったのは、どのようなときですか？」
- 4 「Bさんが想像する、最悪の事態はどのようなものでしょうか？」
- 5 「今、Bさんが抱える状況の根本の原因は何だと思いますか？」

問題 116 事例を読んで、Y地域包括支援センターのC社会福祉士が参加している認知症初期集中支援チームの対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

Y地域包括支援センターに「夫の物忘れがひどく、指摘するとすぐに怒りだすことと、時折暴力を振るうことで困っている」とDさん(72歳)から電話相談があった。その後、Dさんが来所して夫の日常の様子を詳しく話した。夫に病院で受診をしてもらおうとしたが、「俺はどこも悪くないから病院には行かない」と拒否され、困っているという。そこでCは、認知症初期集中支援チームにおける対応が必要と考え、ケース会議の開催を要請した。

- 1 夫を刺激しないように、認知症サポーターとCが自宅を訪問する。
- 2 Dさんが一人の時間を持てるように自宅を訪問し、夫の利用可能な認知症カフェの案内を手渡す。
- 3 夫の状態について、認知症サポート医から専門的知見による助言を求める。
- 4 夫の生活の様子を聞くために、介護福祉士とCが自宅を訪問する。
- 5 Dさんへの暴力回避のために、保健所の職員とCが自宅を訪問する。

問題 117 事例を読んで、ひきこもり地域支援センターのF職員(社会福祉士)による、グループワークのこの段階における関わりとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

Fは、ひきこもり地域支援センターが1か月前に開設した、ひきこもり状態にある人たちのための居場所であるカフェで、グループへの支援を行っている。Fは2年前から根気強く訪問していたGさん(38歳、男性)にもこのグループへ参加しないかと声をかけたところ、「どんなメンバーで、どんなことをしているのか」と興味を示し、久しぶりに外出し、カフェに初めて姿を見せた。Gさんは対人関係のつまづきからひきこもり状態となった経緯があり、人見知りがある。

- 1 人見知りが激しいことを知っているので、他のメンバーに対応を委ねる。
- 2 関係づくりができていることを活かしたいので、Gさんと二人で会話を続ける。
- 3 以前から参加している他のメンバーと話せるように橋渡しをする。
- 4 メンバー同士の関係を活用し、Gさんの長いひきこもり体験をメンバー間で分かち合うよう促す。
- 5 Gさんの過去の対人関係をメンバー間で振り返り、気持ちの分かち合いを促す。

問題 118 ソーシャルワークの面接技術に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 明確化によって、クライアントに特別な行動をするように伝えて、課題解決を促す。
- 2 言い換えによって、クライアントの話す内容や感情を別の言葉で表現し、気づきを促す。
- 3 閉じられた質問によって、クライアントが自由に話すのを促す。
- 4 要約によって、より多くの情報を収集するために、クライアントの自己開示を促す。
- 5 問題への直面化によって、クライアントとの信頼関係を構築する。